

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夢や希望、志を持ち、学びを通じて、自らの人生をたくましく生きる力と社会に貢献する力を兼ね備えた人材を育成する学校をめざす。

- (1) 自らの人生を切り拓き、生涯をたくましく生きる力を育む。
- (2) 人を思いやり、強い責任感と高い規範意識を持ち社会に貢献できる力を育む。
- (3) 自らの考えを的確に発信し、相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力を育む。
- (4) 特別枠入試（「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」）の実施に伴い、より一層多様な価値観を認め、異文化を理解し共生社会を実現する力を育む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 生徒の「学ぶ意欲」を喚起し、基礎・基本となる学力の定着を図る。併せて、生徒一人ひとりが自らの考えを的確に伝えるとともに相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力を育成する。
 - ア 授業規律の徹底及び共通履修科目の指導を通じた基礎・基本となる学力の充実を図る。その際、授業ノートの取り方、話の聴き方、予習・復習の習慣や家庭学習の定着などについてもきめ細かい指導を行う。
 - イ 生徒の主体的な学習態度を育成するために現状を把握するとともに、すべての授業等において論理的に考え、まとめ、発表する力を育成する。
 - ウ 生徒の進路希望、興味・関心、能力・適性に応じた教育課程を実施する中で、選択授業の充実を図り、自ら学び考える力や学ぶ姿勢を育成する。また、発展的学習にも力を注ぎ、高い学力の育成により関西中堅私立大学以上への受験者合格率 40%以上をめざす。
 - エ 「学ぶ意欲」の喚起と学力の定着のため、分掌、学年、教科等が連携し、授業アンケートの活用や教員相互の授業参観等を通じた授業改善を推進する。その際、学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を積極的に活用する。
 - ※生徒向け学校教育自己診断の「授業満足度」の肯定的回答率（平成 28 年度平均 61%）を毎年 4%以上引き上げ、平成 31 年度に 73%をめざす。
 - ※生徒向け学校教育自己診断の「授業で発表する機会がある」の肯定的回答率（平成 28 年度 53%）を毎年 4%以上引き上げ、平成 31 年度に 65%をめざす。
- (2) 英語のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、英語の四技能（聞く・読む・話す・書く）の向上を図る授業を実施する。
 - ア コミュニケーションツールとして英語を学び、「積極的に英語を使う」学校づくりを推進する。
 - イ 国際理解教育を推進するとともに、各種検定試験の資格取得を通して英語運用能力の向上をめざす。

2 キャリア発達の支援

- (1) 望ましい職業観・勤労観を育成するため、学年が進路指導部、教務部、各教科と連携を図り、卒業までの 3 年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育を推進する。
- (2) 同窓生や地域人材との連携や施設を有効活用し、「夢」や「希望」、「志」を持ち、自らの進路実現に努力する生徒を育成する。
- (3) 生徒の主体的学習を推進するため、整備した自習室を積極的に活用し、自主的に学習に取り組む生徒を育成する。また、ホームページ等を活用して進路に関する家庭への連絡や情報を積極的に発信する。
 - ※生徒向け学校教育自己診断の「進路指導関係項目」の肯定的回答率（平成 28 年度平均 69%）を毎年 3%以上引き上げ、平成 31 年度に 78%をめざす。

3 誰もが安心して学ぶことのできる学校づくりに向け、生徒の自己効力感と人権意識を向上（「自主自律」や「文武両道」の精神を育成）

- (1) 生徒会と各学年が連携を図り、学校行事や部活動等を通して生徒に達成感や成就感を実感させるとともに、行事等を主体的に運営する力を 1 年次から育成し、自己効力感を高める。併せて、公共のルールやマナーを守る社会性を育成する。
 - ア 「あいさつ」「服装・頭髪」「時間管理」「集団生活のマナー」等、自律した行動の基礎となる日常的な生活習慣の確立を図る。
 - イ 円滑なコミュニケーション力やプレゼンテーション力などの育成を通して、対人関係能力の向上を図り、クラスづくりや学年づくりを推進する。その際、学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を活用する。
 - ※普通科総合選択制アンケートの「プレゼンテーション関係項目」の肯定的回答率（平成 28 年度平均 59%）を毎年 3%以上引き上げ、平成 31 年度に 68%をめざす（独自アンケートにより検証）
 - ウ 学校行事（体育祭や文化祭等）や学年行事、ホームルーム活動など、生徒が主体的に企画・立案、運営し、達成感や満足感の伴う取組みを充実するとともに、ボランティアなどの地域貢献活動も推進する。
 - ※生徒向け学校教育自己診断の「行事満足度」の肯定的回答率（平成 28 年度平均 71%）を毎年 3%以上引き上げ、平成 31 年度に 80%をめざす。
 - ※地域清掃活動への参加者数、延べ 500 人以上をめざす。（平成 28 年度 300 人）
 - エ 生徒の向上心や協調性・協力性等を高めるため、部活動の入部を促進し活性化を図る。
- (2) 他者に対する優しさやちがいを受け入れ、お互いの立場や思いを尊重する心を有し、状況に応じた言動や人権尊重の意識を育成する。
- (3) 誰もが安心して学ぶことのできる学校として健康安全教育を組織的、計画的に実施する。（いじめ等の防止、薬物乱用、防災避難訓練）

4 学校全体の課題を解決するため、組織的活動の徹底と教職員力を向上

- (1) 教育課題に迅速に対応するため、将来構想検討委員会・分掌・学年・教科等で連携を図り、生徒にとってよりよい教育活動を推進するとともに、その取組みを分析・評価し、改善につなげる。また、日々の教育活動をホームページ等で積極的に校外に発信する。
- (2) 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」による入学生徒への指導体制を確立するとともに、国際交流の取組みを充実する。
- (3) 教職員の人権意識の向上をめざし研修の充実を図るとともに、人権侵害事象の未然防止（SNS の適切な使用方法など）や関係諸機関と連携した指導体制を確立する。
- (4) 配慮を要する生徒への共通理解を図り、カウンセリング機能を活かした適切な指導や、組織を再構築して保護者や関係諸機関等と連携した教育相談体制

を確立する。

(5) 学校全体で組織的にミドルリーダーや経験の少ない教員の育成に取り組む。

(6) 良好な教育環境の確保に努め、施設、設備の計画的な改善に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(選択肢は、1 = よくあてはまる、2 = ややあてはまる、3 = あまりあてはまらない、4 = まったくあてはまらない。文中の回答の数字(%)は、特に指定しない限り 1 と 2 の合計を肯定的回答とする)</p> <p>【学校生活への満足度、全体的傾向】 () は前年度、単位% * 2% 以上の変化に下線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校に行くのが楽しい」 71 (75) 「施設や設備、道具や器具がこわれたら、すぐに修理、交換してくれる」 57 (61) 「教室や廊下等の清掃が行き届いている」 48 (49) ・保護者「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」 80 (79) 「教室や廊下等の清掃が行き届いている」 58 (58) ・教職員「教室や廊下等の清掃等環境整備に努めている」 65 (56) <p>○学校生活への満足度について、生徒の評価が低下・保護者は概ね評価</p> <p>○清掃等環境整備について生徒・保護者と教職員の評価に差がある。特に生徒の清掃等において主体的な取組みをさらに進めるとともに、老朽化した施設・設備の改修についても、学校全体での計画的な取組みが必要</p> <p>【保護者との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」 81 (79) 「学校は、保護者の願いに応じている」 72 (70) 「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」 68 (65) 「学校のホームページをよく見る」 24 (28) ・教職員「家庭への連絡をきめ細かく行っている」 88 (87) 「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」 66 (87) <p>○保護者との連携についての評価が改善。一方、保護者と教職員との認識の差は依然として大きい。</p> <p>○保護者向け、中学生向けに何を情報提供すべきか考えたうえで、ホームページの活用方法の改善が必要</p> <p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「授業はわかりやすい」 61 (59) 「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」 67 (63) 「教え方に工夫をしている先生が多い」 60 (57) 「授業で、自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」 53 (53) 「授業でコンピュータやプロジェクタを活用している」 68 (45) ・保護者「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている」 49 (50) ・教職員「学習内容の分からない生徒について、補習など、適切に指導を行っている」 78 (78) 「学習活動の充実に分掌・教科・学年として工夫した取組みができています」 52 (59) 「学習指導計画・指導内容について、教科間で話し合う機会がよくある」 60 (67) 「コンピュータ等の情報機器が、各教科の授業などで有効に活用されている」 78 (49) <p>○授業のわかりやすさ、指導方法の改善、ICT機器の活用について、生徒の評価が向上。一方、保護者の評価とは差がある。</p> <p>○学習指導について教科間で組織的に話し合う機会について、教職員の評価が低下</p> <p>○生徒にとってわかりやすい授業、発表機会の充実、ICT機器の一層の活用、生徒が主体的に参加する授業に向け、組織として話し合う機会の充実が必要</p> <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「将来の進路や生き方について考える機会がある」 75 (77) 「学校は知りたい情報を適切に知らせてくれている」 71 (65) 「ガイダンスや総合学習、進路 HR はエリア選択や進路決定に役立つ」 65 (63) ・保護者「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」 79 (76) 「学校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」 70 (68) ・教職員「興味・関心、適性に応じて選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」 68 (65) 「教職員全体で進路指導に取り組む体制が取れている」 58 (45) <p>○生徒・保護者・教職員共に進路指導についての評価が向上</p> <p>○生徒が将来の生き方について主体的に考えて行動できるよう、進路指導部・教務部・各学年等が連携し、3年間を見通したガイダンスや総合的な学習の時間の充実に取り組む。</p> <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校生活についての先生の指導には納得できる」 54 (61) ・保護者「学校の生徒指導方針に共感できる」 64 (66) ・教職員「生徒指導は、生徒・保護者に理解されている」 61 (80) 「教職員は協力して生徒の生活指導に当たっている」 62 (60) <p>○生徒指導への理解について、生徒・保護者・教職員の評価が大きく低下</p> <p>○服装指導・遅刻指導に学校全体で取り組み、成果をあげたことから教職員の協力についての評価が向上</p> <p>○指導のあり方について、教職員の方針共有とともに、生徒・保護者の理解を高めて、協力体制を構築することが必要</p> <p>【人権尊重の教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校では、いじめやセクシャルハラスメントが起こりにくい」 77 (73) 「学校では、人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」 67 (64) 「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」 65 (61) 「SNS を適切に使用し、安心して学校生活を送っている」 81 (83) ・保護者「学校では、子どもに関するプライバシーが守られている」 84 (83) 	<p>第1回 (6月6日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学選抜」による入学生徒(*くろーばぁ生)について <ul style="list-style-type: none"> ・多様性のある生徒の受け入れは大切。一般入試による入学生徒(*一般生徒)との交流を進めてほしい。 ・くろーばぁ生が日本の文化を学ぶ機会、一般生徒が外国の文化を知る機会を積極的に設けてほしい。 ・くろーばぁ生について <ul style="list-style-type: none"> しっかりとした日本語学習と教科学習 特別入試であること、日本語の理解度 ルーツのある国の教育制度などを踏まえた評価 卒業後の進路保障についての検討が必要 ・一般生徒についても、自己効力感を高める評価のあり方を検討するべき ○習熟度別少人数授業について <ul style="list-style-type: none"> ・展開の仕方・評価の在り方等、今年度のふり返りを踏まえ、今後、効果的な授業ができるように検討してほしい。 ○生徒指導について <ul style="list-style-type: none"> ・朝のSHRは遅刻の減少等、成果があがっており、引き続き取り組んでほしい。 *今年度当初から服装指導に重点的に取り組み、きちんとした着方が定着してきたことを報告 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ紹介の廊下掲示はよい取組みである。取組みを通し、クラブ加入率を高め、生徒の自己効力感を向上させてほしい。 <p>第2回 (10月31日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業見学について <ul style="list-style-type: none"> ・授業を見学し、先生の発する言葉にエネルギーを感じた。先生と生徒が相互にやり取りをしたり、生徒に考えさせて理解させたりする授業スタイルであった。 ・一部、準備ができていない生徒・授業に参加できていない生徒がいたのは残念 ・生徒にはノートの取り方から指導することが必要 ・生徒が学ぶに当たって、以下の3つが大切 <ul style="list-style-type: none"> (1) 主体的に学ぶこと (2) 夢を持つこと (3) コミュニケーション力を高めること ○授業改善について <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意欲の向上とともに家庭学習の定着が大切 ・授業アンケート結果が向上していることから先生の努力が理解されつつある。 ・今後、大学入試成果をアピールすべき。 ○生徒指導について <ul style="list-style-type: none"> *学年の生徒指導担当等で毎日声掛けをしていること、全学年で服装指導に取り組み、生徒も落着きをみせていることを報告 ○普通科専門コース設置校となり、教員数が減少する中、組織的な取組み、引継ぎをきっちりする継続的な取組みが必要 <p>第3回 (1月24日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器の活用について <ul style="list-style-type: none"> ・機器の活用について学校教育自己診断結果が向上していることは評価できる。どのような活用をしているか。(学校より) ・平成28年度の学校経営推進費により全HR教室等に設置(教科での活用具体例を紹介) ○進路指導について(学校より) <ul style="list-style-type: none"> ・1年次から進路説明会、模擬試験の推奨等を行っている。

府立東淀川高等学校

<p>「学校は、生徒の生命や人権を大切に教育に取り組んでいる」 78 (74)</p> <p>「生命を大切に心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」 76 (76)</p> <p>「子どもはSNSを適切に使用し、安心して学校生活を送っている」 *新項目 86 (83)</p> <p>・教職員「体罰やセクハラ防止等、人権尊重の姿勢にもとづいた指導が行われている」 88 (87)</p> <p>「生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会を作るよう配慮している」 76 (72)</p> <p>「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全職員で話し合っている」 60 (72)</p> <p>「生徒がSNSを適切に使用し、安心して学校生活を送るよう指導している」 76 (67)</p>	<p>・生徒は早くから自分の進路について考える一方、学習に本格的にとりかかる時期が遅いことが課題である。学校としては、生徒に対し、時宜に応じた働きかけを充実させることが必要と考えている。</p> <p>○習熟度別少人数授業について</p> <p>・習熟度別少人数授業に関するアンケート結果から、通常学級より少人数授業の方が、評価が高いことは理解できる。</p> <p>今後、習熟度別授業の効果について、評価基準を定める必要がある。</p> <p>・特に標準クラスの生徒の満足度を高め、学力をしっかり伸ばすため、標準・発展各クラスの人数配置についても検討が必要</p> <p>(学校より)</p> <p>・年度末に実施予定のアンケートについて、ご意見を踏まえて実施のうえ、その結果を次年度の取組みに反映させる。</p> <p>○評価基準について</p> <p>・生徒に対して評価基準が明示されているか。生徒の自主的な学習意欲を高めるためにも、今後、評価基準を明示することが望ましい。</p> <p>○アルバイトについて</p> <p>・経済的な理由等でアルバイトが必要な生徒がいることは理解できる。一方で、実態を把握したうえで、生徒への適切な働きかけが必要ではないか。</p> <p>○学校の取組みについて</p> <p>・広報活動について、学校が努力してさまざまな取組みをしていると感じる。多くの保護者に取組みが伝わるような、情報発信の工夫が必要</p> <p>・将来構想検討委員会が中心となり、学校全体の問題解決に向けた行動計画を作成しているのはよい取組みである。</p>
<p>○人権教育に係る取組みについて、生徒の評価が向上</p> <p>○悩みや相談に乗ってくれる先生への生徒の評価は引き続き向上</p> <p>教育相談体制の確立とともに、個々の教員が生徒の相談や抱える悩みなどに対応できる力を育成する必要がある。</p> <p>○SNSについての指導は引き続き大きな課題であり、生徒指導の観点からも指導の充実が必要である。</p> <p>○教職員研修等による情報共有や話し合いの充実により、教職員の人権についての意識を高め、生徒の成長を促すとともに、生徒の人権意識を高める取組みを一層充実させる必要がある。</p> <p>【学校の方向性】</p> <p>・教職員「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」 72 (78)</p> <p>「担任会、教科会、各種委員会など、校内の会議では、有効な議論がなされている」 74 (67)</p> <p>「分掌や学年等での連携が円滑に行われている」 64 (51)</p> <p>「校内研修・学習会は課題に即したテーマで行われ、内容も充実している」 78 (80)</p> <p>「教育活動全般にわたる評価を行ない、次年度の計画に活かしている」 60 (46)</p> <p>○会議での有効な議論、分掌や学年等での連携、教育活動全般の評価と次年度の計画への活用について、評価が向上</p> <p>○教育活動の一層の質的向上に向け、学校の現状と課題について教職員が情報を共有したうえで、学校全体で協力して具体的な取組みを進めることが必要</p>	

府立東淀川高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)基礎学力の定着ならびに学ぶ意欲やコミュニケーション力の育成 ア 授業規律の徹底指導と基礎学力の向上	(1) ア ・全ての授業で、授業開始の挨拶や授業準備などの授業規律の徹底を図る。 ・新入生オリエンテーションやすべての授業で、聴く姿勢や授業ノートの作り方等を、継続的に指導 ・学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を活用して、基礎学力の定着を図るとともに、生徒に自学自習の習慣を育成	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断「授業満足度」 4%アップ (H28:61%) ・授業アンケート「授業内容について、必要な予習や復習ができている。」「授業中は、集中して先生の話を聞き、学習に取り組んでいる。」 平均値を3.1以上 (H28:3.0)	(1) ア ・「授業満足度」 62% (○) ・「予習・復習」「授業に集中」 3.1 (◎) *H28 から実施したSHRにより1限から授業に集中する姿勢が育ってきている。 *視聴覚機材を活用して授業の改善を進める教員が増加 *聴く姿勢や授業ノートの作り方、自学自習の習慣の育成が課題
	イ 主体的な学習態度と論理的な思考力を育成	イ ・生徒の主体的な学習を促すため、すべての授業で、論理的に考え、まとめ、発表する機会を充実する。その際、学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を活用して、生徒のコミュニケーション力を育成 ・本校生に対応した指導計画や指導方法の蓄積と効果的な方策を検討する。その際、平成31年度からの「高等学校基礎学力テスト」の実施等に向けて、論理的な思考力を育成 ・昨年度の数学での先行実施に続き、国語、英語でも少人数習熟度別授業を実施	イ ・生徒向け学校教育自己診断「授業で、自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」 57%以上 (H28:53%) ・教員向け学校教育自己診断「学習指導計画・指導内容について、教科で話し合う機会がよくある」70%以上 (H28:67%) ・国語・数学・英語において実施成果と課題を整理	イ ・「考えをまとめ、発表」 53% (○) ・「教科で話し合い」 60% (△) *H29 入学生から1年次に学校設定科目「探究I」を実施。また、2年次の現代文の授業で、論理的な思考力を育成する内容を実施。次年度は国語科の教員が論理的な思考力を育成する授業を担当 *1年次の国語総合・数学I・英語表現Iと、2年次の英語表現IIで習熟度別少人数授業を実施。全科目につき、2学期にアンケートをとり、成果・課題を整理。次年度の実施計画を検討中 *「考えをまとめたり発表したりする機会」の一層の充実が課題
2 キャリア発達の支援	ウ 生徒の進路実現に向け、自由選択科目の更なる充実	ウ ・自由選択科目については、生徒実態や進路実現に応じた内容となるよう、教科会、教育課程検討会議を中心に検討 ・進路実現に向けて、特に自由選択科目の学習の重要性を周知 ・学年・教科が連携を図り、年間を通して、計画的・組織的な補習・講習を実施	ウ ・生徒向け学校教育自己診断「自分の進路に必要な科目が選択できた。」74%以上 (H28:71%) ・四年制大学進学における希望実現80%以上 (H28:79.0%) ・学校幹旋就職100%維持 ・教員向け学校教育自己診断「学習内容がわからない生徒について、補習など、適切に指導を行っている。」81%以上 (H28:78%)	ウ ・「進路に必要な科目選択」 69% (△) ・「四年制大学の希望実現」 83% (◎) *3月末 ・学校幹旋就職 100% (◎) ・「補習など、適切に指導」 78% (○) *3年生で進路実現に向け、年間を通した講習を実施 (科目:国語・数学・英語・日本史) *2年生で生徒の実態に応じ、年間を通した週末課題を実施 (国語・英語) *1年生で生徒の進路希望に応じた取組み (冬休みに難関大学受験をめざしたガイダンス) を実施
	エ 「授業力」の向上を目的とした授業公開・研究協議会を実施	エ ・授業アンケート結果を教員および教科等にフィードバックし、「ふり返しシート」を活用しながら、各教科で年間を通して授業改善に取り組み、その結果を検証 ・教員の学ぶ機会を充実するため、授業公開週間を複数回行い、目標やテーマを設定して研究協議会を実施	エ ・生徒向け学校教育自己診断の「教え方に工夫をしている先生が多い」61%以上 (H28:57%) ・授業公開と研究協議会の実施 (年2回以上) ・外部講師等による研修 (年1回以上)	エ ・「教え方工夫をしている先生」 60% (○) ・「授業公開と研究協議会」 年2回 (◎) ・「外部講師等の研修」を実施 (◎) *2回の授業アンケート結果 (コメント含む) を教員・教科にフィードバック *今後、個人・教科で作成した「ふり返しシート」をもとに話し合いが必要 *テーマを設定して授業公開と研修を実施 6月「プロジェクトを活用する授業」・「考え、まとめ、発表する力を高める授業」 11月「生徒を授業に向かわせる工夫」 *教育産業を活用した研修を実施 (10月)
2 キャリア発達の支援	(1)望ましい職業観、勤労観を育成するため、3年間を見通した組織的なキャリア教育を推進	(1) ・卒業までの教育活動全般を通して、組織的・系統的なキャリア教育を推進するため、学年が進路指導部、教務部、各教科と連携を図り、卒業までの3年間を見通した指導計画を作成する。また、ホームページ等を活用して進路に関する連絡や情報を積極的に家庭に発信する。 ・時間の有効な活用や計画的に行動できる生徒を育成するため、全学年でスケジュール帳の積極的な活用を推進	(1) ・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関係項目」 72%以上 (H28:69%)	(1) ・「進路指導関係項目」 70% (○) *H29 入学生から普通科専門コース設置校 (幼児教育・看護医療コース) になったことに伴い、1年次の夏季休業中に大学見学を実施。また、幼児教育に関して大学講師による講話及び保育所体験、看護医療に関して病院体験を実施 *模擬試験情報について、既存の携帯連絡網を活用して発信 *全学年の生徒に対し、学校独自に作成したスケジュール帳を配付し、スケジュール管理等での活用を推進。生徒の活用を促すため、次年度の配付に向けて改訂中
	(2)同窓会と連携した講演会等の実施	(2) 同窓会組織である「江風会」と連携し、進路意識を高める取組みを継続・実施	(2) ・「先輩と語ろう会」実施後のアンケートの肯定的回答率85%以上	(2) ・進路意識の向上に向けて「先輩と語ろう会」の在り方や地域人材等の活用について見直しを行い、新たな取組み「現場で働く卒業生との交流会」を実施。参加者世船員の感想文で肯定的評価 (○)
	(3)主体的な学習態度の育成	(3) 主体的な学習態度を育成するため、年間を通して自習室の活用を図るとともに、生徒が主体的に学習する機会を設定	(3) ・各学年で生徒が主体的に学習する機会を計画的に設定 ・生徒向け学校教育自己診断「授業で分からないことについて先生に質問しやすい」 66%以上 (H28:63%)	(3) ・個人ブースを設置した自習室を2学期に整備し生徒に開放 (◎) ・「分からないことが質問しやすい」 67% (◎)

府立東淀川高等学校

<p>3 誰もが安心して学ぶことのできる学校づくりに向け、生徒の自己効力感と人権意識の向上</p>	<p>(4)生徒の自己効力感の向上と社会性の育成 ア 基本的な生活習慣の確立</p> <p>イ コミュニケーション力などの対人関係能力を向上</p> <p>ウ 達成感や満足感の伴う取組みの充実</p> <p>エ 部活動の活性化</p> <p>(2)豊かな人権意識の育成</p>	<p>(1) ア ・相互の挨拶の徹底指導を図る。 ・「入室カード」による指導が形骸化しないよう、具体的な方策を学校全体で検討 ・保護者への情報発信等をはじめ、連携して生徒への指導にあたる</p> <p>イ 「総合的な学習の時間」や学年行事、ホームルーム活動等を活用し、生徒一人ひとりに「考える、まとめる、発表する等」の機会を提供し、コミュニケーション力を育成。その際、学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を積極的に活用</p> <p>ウ ・生徒会と各学年が連携を図り、学校行事や部活動等を通して生徒に達成感や成就感を実感させるとともに、行事等を主体的に運営する力を1年次から育成 ・新大阪駅前の清掃活動をはじめ、生徒会や部活動等が中心となり、地域貢献活動を推進</p> <p>エ ・入学直後の部活動紹介の工夫や、新入生の全員仮入部の実施など、ていねいな入部指導により加入を促進 ・ホームページや広報誌等の活用により活動を周知</p> <p>(2) 集団づくり(クラス、学年)や国際交流事業等を通して、人を思いやり、多様性を認める力を育成</p>	<p>(1) ア ・生徒会主催で「あいさつ運動」を学期に1回実施 ・遅刻者総数を年間2000件以下に。1年生は500件以下 (H28:遅刻総数2488件、1年生771件) ・教員向け学校教育自己診断の「協力して生徒指導に当たっている」63%以上(H28:60%) ・朝のSHRを継続して実施 ・保護者向け学校教育自己診断「学校の生徒指導方針に共感できる」70%以上(H28:66%)</p> <p>イ ・普通科総合選択制アンケート「コミュニケーション力関係項目」62%以上(H28:59%) ・生徒向け学校教育自己診断の「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある。」56%以上(H28:53%)</p> <p>ウ ・生徒向け学校教育自己診断の「学校行事満足度」74%以上(H28:71%) ・参加者数500人以上(H28:300人) ・定期的に生徒会主催で学校内外の清掃活動を実施(各学期1回以上)</p> <p>エ ・生徒向け学校教育自己診断の「部活動満足度」肯定的回答65%以上(H28:62%) ・1年生加入率76%以上(H28:80%) ・渡日生のためのクラブ(くろーばぁ)活動を実施</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断の「学校で、人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」67%以上(H28:64%)</p>	<p>(1) ア ・「あいさつ運動」各学期に実施。3学期実施予定(◎) ・遅刻者総数2208件(○) 1年生535件(○) *3月末 ・「協力して生徒指導」62%(○) ・朝のSHRは継続実施中(◎) ・「学校の生徒指導方針に共感」64%(△) *今年度、服装指導・遅刻指導に学校全体で取組み、大きく改善 *指導のあり方については、生徒・保護者の理解を高めて、協力体制を構築することが必要</p> <p>イ ・「コミュニケーション力関係項目」69%(◎) ・「考えをまとめ発表する機会」53%(○) *1年夏休み研究発表会、2年修学旅行事前学習の発表などの取組みを実施 *授業での機器の活用は進んでいる。考え、発表する機会での活用推進が必要</p> <p>ウ ・「学校行事満足度」72%(○) ・清掃活動参加人数350人(○) *雨天による中止3回 ・生徒保健委員会中心に学校行事学校説明会前に清掃活動を実施(○) *体育祭の応援団指導を計画的に実施 *特に文化祭の活性化など、年間を通した計画的な取組みが必要</p> <p>エ ・「部活動満足度」68%(◎) ・1年生加入率65%(△) ・くろーばぁ活動として、地下鉄通訳ボランティア、大阪マラソン通訳ボランティア等に参加(◎) *今年度取り組んだ新入生の全員仮入部の実施の検証が必要</p> <p>(2) ・「人権や命の大切さについて学ぶ機会」67%(◎) *全学年で国際理解学習を実施 *2年で沖縄修学旅行の事前平和学習を実施</p>
---	--	--	--	---

府立東淀川高等学校

<p>4 学校全体の課題を解決するための組織的活動の徹底と教員力の向上</p>	<p>(1) 分掌・学年等の年間目標設定と評価の達成に向けた組織的な取り組み広報活動の推進</p> <p>(2) 渡日生の受け入れに係る取り組みの推進</p> <p>(3) 人権侵害事象の未然防止</p> <p>(4) 教育相談体制の確立</p> <p>(5) 経験の少ない教員の育成</p> <p>(6) 老朽化した施設・設備の改善</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迅速に教育課題に対応するため、将来構想委員会や分掌、学年や教科、各委員会等が連携するなど、学校全体でよりよい教育活動を推進 ・学校経営計画をもとに分掌や学年で重点目標や目標設定を行い、中間時点で取り組み状況や点検項目等を学校協議会に報告 ・ホームページを活用し、本校の特長（普通科専門コース制、特別枠入試等）について情報発信 <p>(2)</p> <p>渡日生の受け入れについて学外への周知に努める。学内では分掌業務に位置付けるとともに、学校全体で取り組みを推進</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人権意識の向上に向け職員研修を実施 ・SNSの適切な使用について各学年で生徒向け学習会等を実施 <p>(4)</p> <p>高校生活支援カードの活用の充実などにより、配慮を要する生徒の情報を学校全体で共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の変化に迅速に対応するため、保護者や関係諸機関等（SSWなど）との連携を充実するとともに、教育相談体制を確立（教育相談委員会の設置） <p>(5)</p> <p>管理職、首席、指導教諭等を中心に、経験の少ない教員を育成、指導</p> <p>(6)</p> <p>施設・設備についての改善計画をもとに、環境改善に努める。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員向け学校教育自己診断の「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」80%以上(H28:78%) ・教員向け学校教育自己診断の「分掌や学年等での連携が円滑に行われている」55%以上(H28:51%) ・教員向け学校教育自己診断の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている」50%以上(H28:46%) ・保護者向け学校教育自己診断「学校のホームページをよく見る」32%以上(H28:28%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内外の説明会で受け入れについて周知（5回以上） ・学習・生活面について校内で学習会・研修会等を実施（各学期1回以上） <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員向け学校教育自己診断の「人権尊重に関して全教職員で話し合っている」75%以上(H28:72%) ・生徒向け学校教育自己診断の「SNSを適切に使用し、安心して学校生活を送っている。」86%以上(H28:83%) ・保護者向け学校教育自己診断の「子どもはSNSを適切に使用し、安心して学校生活を送っている。」86%以上(H28:83%) <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断の「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」65%以上(H28:61%) <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会を各学期に1回実施 <p>(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断の「学校の施設や設備、学校で使う道具や器具がこわれたときは、すぐに修理したり取り替えたりしてくれる。」64%以上(H28:61%) ・教員向け学校教育自己診断の「教室や廊下等の清掃をはじめ、教育環境の整備に努めている。」59%以上(H28:56%) 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育活動について、話し合い」72%（△） ・「分掌や学年等での円滑な連携」64%（◎） ・「評価を行い、次年度の計画に活用」60%（◎） ・「ホームページをよく見る」24%（△） * 育てたい生徒像を踏まえた教育内容に関する校内研修会を開催（2回） * 学年間で情報を共有し、各学年の取り組みに役立たせるため、学年主任会を開催（6回） * 生徒の実態が変化中、3年間を見通してどのような生徒を育てるかについて目標の明確化と共有が必要 * 学年が中心となり、担任会だけでなく学年会も活用して、期間（考査・学期）ごとのふり返りと生徒への働きかけが必要 * 何を情報提供すべきか考えうえで、ホームページの活用方法の改善が必要 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内説明会・地区外教説明会で周知7回（◎） ・校内学習会・研修会6回（◎） <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権尊重に関して話し合い」60%（△） ・生徒「SNSを適切に使用」81%（△） ・保護者「子どもはSNSを適切に使用」86%（◎） * 教職員研修等により、教職員の人権についての意識を高めることで、生徒の成長を促すとともに、生徒の人権意識を高める取り組みを一層充実させることが必要 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「悩みや相談に応じてくれる先生」65%（◎） * 教育相談体制の確立（教育相談委員会の設置）とともに、保護者・SCやSSWとの連携を推進。また、適応指導教室との連携も実施 * 個々の教員が生徒の相談に応じる力を育成することが必要 <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者に対する研修を1学期2回実施（△） <p>(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「施設や設備、道具や器具を、すぐに修理・取り替え」57%（△） ・「教育環境の整備」65%（◎） * 生徒の主体的な取り組み（委員会活動）などを推進し、体験入学における清掃活動にも取り組んだ。 * 取り組みの一層の推進、特に学校全体での取り組みに拡大して、環境整備を行うことが必要
---	---	--	--	---